

平成21年度

# 参与の会報告書

平成22年2月18日（木）

沖縄工業高等専門学校

## 目 次

まえがき	1
1 参与の会日程表	2
2 参与の会出席者名簿	3
3 参与の会規則	4
4 参与の会議事	5
5 参与からの事前質問事項に対する回答	6 1
6 参与からの質問・提言等に対する回答及び今後の対応等	6 5

まえがき

沖縄工業高等専門学校は、沖縄県、関係市町村及び産業界からの強い要請を受けて、平成 14 年 4 月 10 日に「国立学校設置法の一部を改正する法律（平成 14 年法律第 23 号）」の公布により、平成 14 年 10 月に開学しました。その後、平成 16 年 4 月に開校、第 1 期生 175 名が入学しました。平成 21 年 3 月に第 1 回卒業式を挙行し、初めての卒業生を社会に送り出すことができました。さらに、1 期生の卒業に合わせて専攻科を設置し、現在 28 名の学生が学位取得に向けて学業・研究に励んでいます。

さて、本校が開校して 6 年が経過しました。この間、教職員一体となって学校の運営に当たって参りましたが、この度、本校の管理運営、教育研究活動等の状況について評価、助言又は勧告をして頂くことを目的にして第 1 回参与の会を開催しました。

参与の会を開催するに当たり、上間恒義様（沖縄県工業連合会会長）、屋良秀夫様（沖縄職業能力開発大学校長）、山川哲雄様（琉球大学工学部長）、勝目和夫様（沖縄県観光商工部部長）、兼本清弘様（沖縄県中学校校長会会長）、荻堂盛秀様（名護市商工会会長）、山内徹様（内閣府沖縄総合事務局経済産業部長）の外部有識者に参与をお願いしました。

参与の会では、参与の会会長の山川哲雄様の議事進行により、まず学校の施設説明を行った後、実際に校内の施設を視察していただきました。図書館や各学科の実習設備等とともに学生の様子を見て頂くことによって、本校の校風等を直接ご理解頂いたものと考えております。その後、学校概要について自己点検・評価委員長よりご説明し、事前に各参与に送付させて頂いた、「自己点検・評価報告書－第 3 報－」ならびに「自己点検・評価報告書（第 3 報）資料集」を基に有意義なご助言を頂くとともに、本校の関係者との意見交換をして頂きました。

本報告書は参与の会で頂いたご意見を中心に、事前質問事項に対する回答とご提言頂いた事項に関する今後の取り組みをまとめさせて頂きました。

山川会長をはじめ、参与の方々にはお忙しい中、ご来校頂き、貴重なご意見、ご助言を頂いた事項を指針として、今後、本校において教育研究活動の改善を図っていく所存です。今後とも、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

平成 22 年 3 月

沖縄工業高等専門学校長

糸村 昌祐

## 1. 参与の会日程表

I. 日 時 平成22年2月18日(木) 14:00～17:00

II. 場 所 沖縄工業高等専門学校 メディア棟2階 会議室

III. 会次第	予定時刻
(1) 開 会	14:00
(2) 校長挨拶	
(3) 参与紹介及び本校出席者紹介	
(4) 会長選出	
(5) 学校施設説明	14:20
(6) 施設見学	14:30
休 憩	15:00
(7) 学校概要説明	15:10
(8) 意見交換	16:00
(9) 閉 会	17:00

### 配布資料

- ①平成21年度沖縄工業高等専門学校第1回参与の会冊子
- ②事前質問事項に対する回答
- ③学校施設説明資料
- ④学校概要説明資料
- ⑤自己点検・評価報告書 ー第3報ー
- ⑥自己点検・評価報告書(第3報)資料集
- ⑦国立沖縄高専パンフレット
- ⑧学生生活の手引き 平成21年度
- ⑨沖縄工業高等専門学校学校要覧 2009

## 2. 参与の会出席者名簿

### 参与の会参与出席者

氏名	役職名	備考
上間恒義	沖縄県工業連合会副会長	第1号委員
屋良秀夫	沖縄職業能力開発大学校校長	第2号委員
山川哲雄	琉球大学工学部長	第3号委員
小嶺淳	沖縄県観光商工部参事	第4号委員 (勝目和夫観光商工部長の代理出席)
兼本清弘	沖縄県中学校校長会会長	第4号委員
荻堂盛秀	名護市商工会会長	第4号委員
野原貞夫	内閣府沖縄総合事務局経済産業部 地域経済課課長補佐	第5号委員 (山内徹経済産業部長の代理出席)

### 沖縄工業高等専門学校出席者

氏名	役職名
糸村昌祐	校長
松栄準治	副校長(総務主事)
高木茂	副校長(教務主事)
眞喜志隆	学生主事
濱田泰輔	寮務主事
中本正一朗	機械システム工学科長
石田修己	情報通信システム工学科長
正木忠勝	メディア情報工学科長(自己点検・評価委員長)
池松真也	生物資源工学科長
成田誠	総合科学科長
山城光	図書館長
伊波靖	情報処理センター長
小池寿俊	学生相談室長
与那覇明弘	事務部長
眞志喜得永	総務課長
南部元義	学生課長

### 3. 参与の会規則

#### 沖縄工業高等専門学校参与の会規則

〔平成17年11月1日〕  
規則 第12号  
平成19年3月30日  
規則 第3号

(趣旨)

第1条 この規則は、沖縄工業高等専門学校学則（平成16年学則第1号）第7条の規定に基づき、沖縄工業高等専門学校参与の会（以下「参与の会」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 参与の会は、沖縄工業高等専門学校（以下「本校」という。）の管理運営、教育研究活動等の状況について評価、助言又は勧告を行い、本校での自己点検・評価に関する活動を支援することを目的とする。

(任務)

第3条 参与の会は、校長の諮問に応じ、次の各号に掲げる事項について外部評価を実施するものとする。

- (1) 本校の教育研究上の目的を達成するための基本的な計画等に関する事項
- (2) 本校の教育研究活動等の状況について本校が行う自己点検・評価に関する事項
- (3) その他本校の管理運営に関する事項

(組織)

第4条 参与の会は、高等専門学校に関し広くかつ高い識見を有し、本校の発展に理解ある次の各号に掲げる学外者の中から、校長が委嘱した若干名の参与をもって組織する。

- (1) 経済・産業界の関係者
- (2) 技術者教育関係機関の職員又は経験者
- (3) 大学又は高等専門学校等の教育研究機関の教員又は経験者
- (4) 本校の所在する地域の関係者
- (5) その他高等専門学校に関し広くかつ高い識見を有する者

(任期)

第5条 参与の任期は2年とし、再任を妨げない。

2 前項の参与に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(会長)

第6条 参与の会に会長を置き、校長が指名する。

2 会長に事故等があるときは、校長が指名する参与がその職務を代行する。

(運営)

第7条 参与の会の会議は、校長が招集し、会長がその議長となる。

2 会長が必要と認めたときは、参与以外の者を会議に出席させ、意見を聴取することができる。

(事務)

第8条 参与の会の事務は、総務課において処理する。

(雑則)

第9条 この規則に定めるもののほか、参与の会の運営に関し必要な事項は、校長が別に定める。

附 則

この規則は、平成17年11月1日から施行する。

附 則（平19. 3. 30規則第3号）

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

#### 4. 参与の会議事

##### (1) 開 会（真志喜総務課長）

真志喜総務課長が平成21年度沖縄工業高等専門学校第1回参与の会の開会を宣言した。

##### (2) 校長挨拶（糸村校長）

皆様、こんにちは。沖縄高専の校長をしております糸村でございます。

本日は参与の会ということで、年度末のお忙しい中を私どもの方の日程を優先させていただきまして、このような日を設定させていただきました。委員の方々には遠路沖縄高専までおいでいただきまして、ありがとうございます。お礼を申し上げます。

後ほど、学校側からも説明がございますが、本校の学則を別に準備しておけばよろしかったのですが、皆様のお手元にあります学生生活の手引の59ページに学則がございます。この学則の第2条のところに「自己点検・評価を行う」ということが書いてございまして、全国の国立高専はそれぞれ自己点検をいたしまして、機関別認証評価ということで、学位授与機構からそれぞれ学校の教育研究・運営等についての評価を受けることになっております。そのために沖縄高専も、次の60ページの学則第7条に「参与の会」ということで、本校の管理・運営・教育研究について、助言または勧告を行う組織として、参与の会を置くことを学則に謳っております。

本校が第1期生を受け入れました平成16年4月1日の段階でこのように制定しているわけですが、実は、本日が第1回目の参与の会ということで、初めて私どもの学校の活動状況をご説明申し上げて、いろいろとご助言・勧告をいただくという形になっております。

おかげさまで昨年の3月に第1期生を卒業させたわけですが、過去5年間、毎年毎年学生が増え、学年進行で教職員も増えていった中で、私どもの自己点検報告書も今回第3報ということにしてございますけれども、参与の会を開催させていただくのは今回が初めてということになります。皆様方のご助言・勧告をいただき、後ほど参与の会の報告書を作成いたしまして、委員の方々にお送りするという手はずも整えているところでございます。本日は限られた時間でございますけれども、どうぞ私どもの学校運営のために、忌憚のないご意見・ご助言をいただきたく、よろしく願い申し上げます。私からのご挨拶とさせていただきます。

### (3) 参与紹介及び本校出席者紹介（真志喜総務課長）

真志喜総務課長が参与及び本校の出席者の紹介を行った。

### (4) 会長選出

参与の会規則第6条に則り、糸村校長が琉球大学工学部長 山川先生を会長に指名した。

#### ○山川会長挨拶

琉球大学の山川でございます。会長挨拶というシナリオになっておりますので、私のほうから簡単にご挨拶を申し上げます。

こういう参与の会とはいえ、結局、これは外部評価委員会みたいなもので、非常に責任は大きいものがあるかと思っております、不慣れな私ですけれども、糸村校長先生のご指名でございますので、一生懸命務めさせていただきたいと思っております。

糸村先生にあらましましては、この高専の準備段階から今日までその責任者として、よくここまでやって来られた熱意とご尽力に対しまして、心から敬意を表します。

それから私たち工学系は、最近非常に受験生に人気がなく、競争倍率が低下気味なんです。だから53国立大学工学部長会議におきましても、何とか受験生を工学系に引き付けようという努力をやっている最中なんです。工学の魅力をたっぷり小中校生に与えまして、大学受験のときには工学系を選ぶようにということをやっております、多分、高専も同じ状況かと思っております。

先ほどの資料を前もって見ましたところ、沖縄高専も非常に競争倍率が一般選抜の場合には2倍を切ったり切らなかったりしています。2倍を切りますと危険領域に入ると一般に言われております。けれども、そういう領域に入っているみたいですし、私たち琉球大学工学部も去年は環境系が2倍を切っております。ところが、今年は持ち直して3倍近くまで上がりましたが、それにしても工学部全体の平均倍率が去年の2.2倍から今年は2.4倍までちょっと上がったのみです。しかも、電気電子工学科みたいに去年一番高かった学科が逆に1.7倍ということで、非常に厳しい状況に置かれているのはお互いさまでございます、沖縄で工学系があるのはこの沖縄高専と私たち琉球大学工学部の2校でございます。工学というのは非常に生活に密着した学問でございます、社会のニーズも高いところでございますので、何とか沖縄高専と琉球大学の工学部がいろんな意味で連携・協力しながら沖縄の地で工学を発展させたいというふうに常々思っております。

今日、参与の会とはいえ、先ほど申しましたように外部評価委員会みたいなものでございますので、沖縄高専の教育研究に関する基本方針、あるいはそれをどういうふうに行



しているのか、そういう観点あるいは管理・運営に問題はないのかどうかということで、我々の意見あるいはコメントなり、助言をする機会が今日の会議だというふうに私は理解しております。参与の皆さまにおかれましては、忌憚のないご意見を率直に言っていただきたいと思っております。この会が有意義な会で一日終わることを願って、私の挨拶とさせていただきます。どうも、ありがとうございます。

それでは、引き続き議題に入らせていただきたいと思います。日程表に従いますと学校の施設説明となっております。今日は、最初に学校施設の説明をしていただいて、そのあと学校の施設を実際見学して、そして一旦ここにまた戻って、それから質疑・応答・意見という順番になっておりますので、とりあえずは最初に正木先生に学校の施設説明をよろしく願いいたします。

#### **(5) 学校施設説明（正木 自己点検・評価委員長）**

正木自己点検・評価委員長が本校の下記の主要施設についてスライドを用いて簡単に説明した。

- ・ 学校全景
- ・ 図書館
- ・ 視聴覚ホール
- ・ グラウンド、テニスコート
- ・ 講義室
- ・ 夢工場
- ・ 教育・実験棟
- ・ LSI設計室
- ・ メディアコンテンツ演習室
- ・ 中央分析室
- ・ 学生寮
- ・ ネットワーク管理室

#### **(6) 施設見学**

本校の下記の主要施設の見学を行った。

- ・ 図書館
- ・ CALL教室
- ・ 講義室

- ・メディアコンテンツ演習室
- ・LSI設計室
- ・夢工場
- ・中央分析室

**(7) 学校概要説明（正木自己点検・評価委員長）**

正木自己点検・評価委員長が本校の概要説明をスライドを用いて説明した。

第1回 参与の会

# 学校概要説明

平成22年2月18日

独立行政法人国立高等専門学校機構  
沖縄工業高等専門学校

スライド1：表紙

## 本日の説明内容

1. 概要
2. 学生の受け入れ
3. 教育内容・学生支援
4. 学生寮
5. 卒業後の進路
6. 専攻科
7. 教育改善
8. 研究・地域連携
9. 管理運営

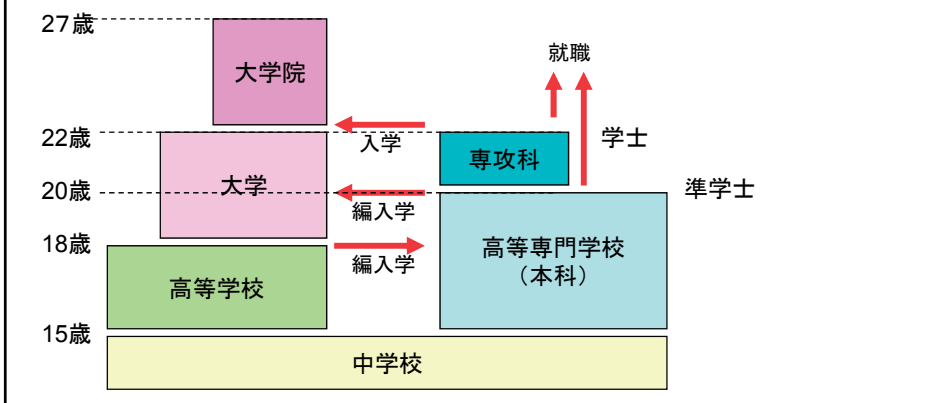
スライド2：本日の説明内容

# 概要

スライド3：概要（表紙）

## 高等専門学校とは

- 学校教育法で定められた高等教育機関
- 準学士を養成する本科(準学士課程)と、学士の養成を目的とした専攻科(学士課程)からなる



スライド4：高等専門学校とは

## 本校の沿革

平成12年 3月	国立高等専門学校(沖縄)創設準備調査室設置
4月	国立高等専門学校(沖縄)創設準備委員会設置
平成14年10月	沖縄工業高等専門学校開学
平成15年 2月	沖縄工業高等専門学校起工式挙行
平成16年 4月	第1回入学式挙行
11月	竣工記念式典挙行
平成21年 3月	第1回卒業式挙行
4月	沖縄工業高等専門学校専攻科設置 第6回入学式、第1回専攻科入学式挙行

スライド5：高等専門学校とは

## 本校の理念・目的

### 理念

人々に信頼され、開拓精神あふれる技術者の育成により、社会の発展に寄与する

### 目的

豊かな人間性および確固たる基礎能力と専門知識を身につけ、経済産業界の養成に的確に対応しつつ、国際的にも活躍できる創造的実践技術者を育成する。

スライド6：本校の理念・目的

## 学科構成

- 4学科を設置(1学科200名、総計800名)
- 本県の亜熱帯環境を活かした生物系の学科(生物資源工学科)は本校独自

平成21年5月1日現在

学 科	現 員					
	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	合 計
機械システム工学科	43 (1)	39 (5)	37 (3)	46 (2)	36 (0)	201 (11)
情報通信システム工学科	44 (9)	39 (2)	43 (6)	45 (9)	35 (9)	206 (35)
メディア情報工学科	42 (18)	42 (13)	42 (13)	48 (16)	35 (8)	209 (68)
生物資源工学科	42 (18)	38 (8)	42 (13)	42 (27)	39 (19)	203 (85)
計	172 (46)	158 (28)	164 (35)	181 (54)	145 (36)	820 (199)

※( )は女子で内数

スライド7：学科構成

## 学生の受け入れ

スライド8：学生の受け入れ（表紙）

## アドミッションポリシー

- 理数系分野に興味があり、それらの科目に基礎学力を有している人
- 責任感や忍耐力があり、多くの人とコミュニケーションが取れる人
- 規則正しい生活と、自発的勉強のできる人

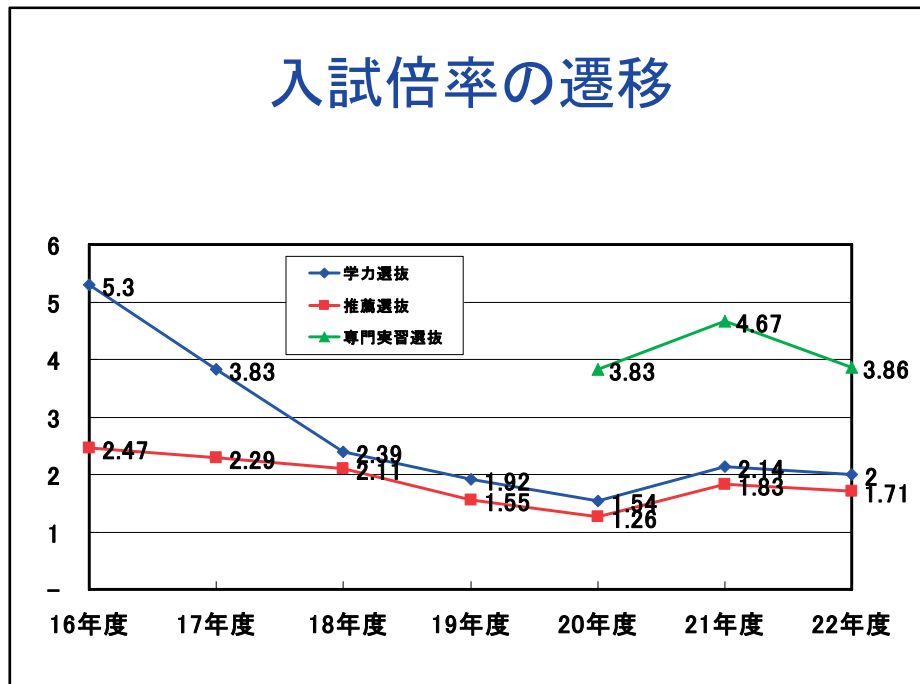
スライド9：アドミッションポリシー

## 選抜方法

- **推薦選抜**
  - 定員の30%程度を合格とする
  - 3年間9科目の評点の合計が114以上が推薦条件
  - 調査書、特別活動(部活等)、面接の総合判定
- **学力選抜**
  - 28名(メディア情報工学科は22名)以上を合格とする
  - 学力試験(5科目)の合計、調査書、特別活動(部活等)を総合判定。ただし、学力試験の成績上位者(30名程度)は調査書にかかわらず合格とする
- **専門実習選抜**
  - メディア情報工学科のみが実施。定員の15%程度を合格とする
  - 3年次の9科目の評点の平均4.0以上を推奨
  - 2科目の専門実習(授業)を行い、演習問題を課す
  - 科目毎に上位の成績者から合格とする

スライド10：選抜方法

## 入試倍率の遷移



スライド 1 1 : 入試倍率の推移

入試倍率は開校当初は学力選抜が5.3倍、推薦選抜は2.47倍ときわめて高い倍率であったが、年度を追う毎に入試倍率は下がり、平成19年度には2倍を割り込んだ、平成21年度から回復傾向が見られたが、平成22年度は前年度を若干下回る結果となった。



## 入学志願者確保の取り組み

- **学校説明会**
  - 平成19年度 6回実施、参加者数440名
  - 平成20年度 8回実施 参加者数571名
- **中学校訪問**
  - 平成19年度 96校(県内70校、県外6校)
  - 平成20年度139校(県内127校、県外12校)
- **オープンキャンパス**
  - 各学科の特徴を中学生向きにわかりやすく体験させることを目的とする
  - 参加者数 平成19年度362名、平成20年度583名
- **サマースクール**
  - 中学生による授業体験
  - 平成18年度から毎年実施
  - 平成21年度はインフルエンザのため中止

スライド12：入学志願者確保の取り組み

## 教育内容・学生支援

スライド13：教育内容・学生支援（表紙）

## 教育の特色

- 演習・実験、実習による参加型授業
- 英語教育を重視し多読・多聴等の新しい試みの実践
- PBLによる学生の主体的参加型授業
- 産業界の協力を得たインターンシップ等の必修化
- 1, 2年次に異なる専門学科を混在させる混合学級
- 生活態度や社会性を学ぶための教育寮(学生寮)を置き、1・2年次は全寮制

スライド14：教育の特色

## インターンシップ

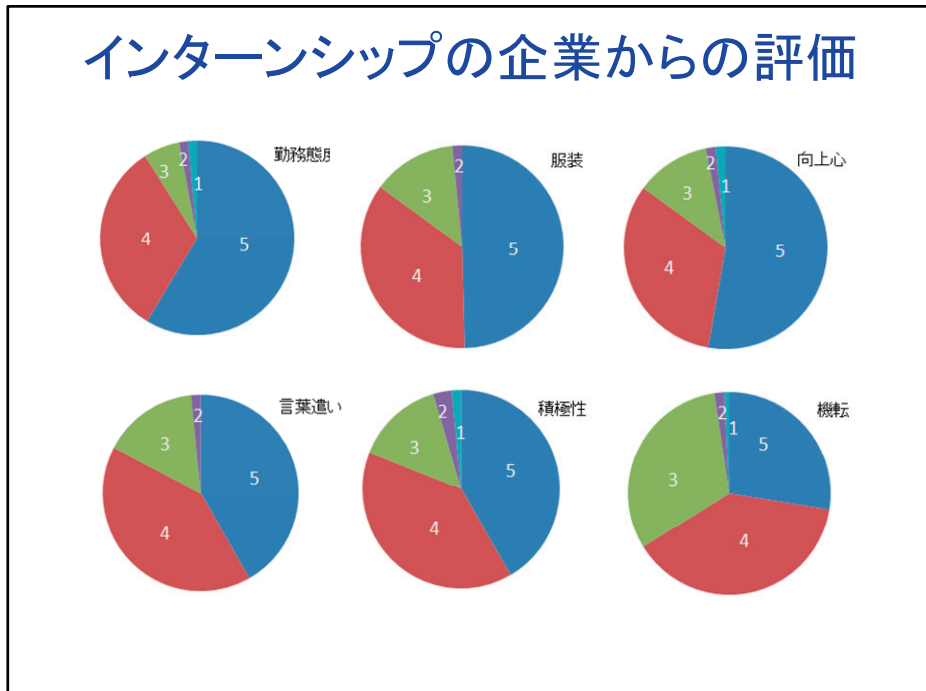
- 4年次に必修科目(3単位)として設定
- 夏期休業中に2週間を基本とした実習

平成20年度実績

	受け入れ先数	学生数
県内企業	36社	53名
県外企業	44社	84名
大学・研究所等	12機関	15名

スライド15：インターンシップ

## インターンシップの企業からの評価



スライド16：インターンシップの企業からの評価

インターンシップに参加した学生の企業からの企業の印端シップ受け入れ担当者からそれぞれの項目に対し、大変よい（5）、よい（4）、普通（3）、やや劣る（2）、劣る（1）の5段階での評価結果を円グラフで示した。勤務態度は大変よい、よいが大半であったが、機転については普通が3分の1を占め、相対的に低い評価となっている。

## 退学・原級留置の現状

平成22年1月現在

	学年	人数
退学	1年	1(0.6%)
	2年	2(1.3%)
	3年	2(1.2%)
	4年	2(1.1%)
	合計	7(0.85%)
原級留置	1年	6(3.7%)
	2年	5(3.0%)
	3年	3(1.7%)
	4年	12(7.6%)
	5年	1(0.68%)
	合計	27(3.3%)

スライド17：退学・原級留置の現状

## クラブ活動

- すべての教員が部・同好会の顧問を担当
- 28団体(体育部13、体育系同好会5、文化部4、文化系同好会6)に405名の学生が所属
- ロボコン、プロコンは部とは別組織とし、ロボット製作員会36名、ICT委員会28名が所属

スライド18：クラブ活動

## 学生の対外活動実績

平成16年	ロボコン九州沖縄地区大会	特別賞
平成17年	ロボコン九州沖縄地区大会	特別賞
平成18年	ロボコン九州沖縄地区大会	アイデア賞、特別賞
	高専プロコン全国大会	課題部門 審査委員特別賞
	九州沖縄地区高専体育大会 女子バスケット	優勝
平成19年	ロボコン九州沖縄地区大会	準優勝
	ロボコン全国大会	特別賞
	高専プロコン全国大会	競技部門特別賞
	パソコン甲子園	デジタルコンテンツ部門グランプリ
	九州沖縄地区高専体育大会 女子テニス	シングルス優勝、ダブルス優勝
	九州沖縄地区高専体育大会 女子バスケット	優勝

スライド19：学生の対外活動実績（1）

## 学生の対外活動実績

平成20年	ロボコン九州沖縄地区大会	優勝
	ロボコン全国大会	優勝
	パソコン甲子園	デジタルコンテンツ部門グランプリ
	理工系学生科学技術論文コンクール	優秀賞
	九州沖縄地区高専体育大会 女子テニス	シングルス優勝、ダブルス優勝
	九州沖縄地区高専体育大会 女子バスケット	優勝
平成21年	ロボコン九州沖縄地区大会	優勝
	ロボコン全国大会	特別賞
	パソコン甲子園	デジタルコンテンツ部門準グランプリ
	MDDロボットチャレンジ2009	飛行競技 奨励賞
	九州沖縄地区高専体育大会 女子バスケット	準優勝
	九州沖縄地区高専体育大会 女子テニス	団体戦準優勝、ダブルス準優勝
	九州沖縄地区高専体育大会 卓球	女子シングルス準優勝

スライド20：学生の対外活動実績（2）

## 学生の対外活動実績



平成20年ロボコン全国大会優勝



平成19年パソコン甲子園 グランプリ



平成19年プロコン 競技部門 特別賞

スライド21：学生の対外活動実績（3）

## 資格取得支援

- 情報処理技術者試験の資格取得を支援
- 学校を通じた団体申し込み
- 後援会の支援による受験会場(那覇)まで、バスで送迎

平成20年度 情報処理技術者試験受験実績

	受験者数	合格者数
初級シスアド	53	13
基本情報	72	15
ソフトウェア開発	13	4
情報セキュアド	4	1
エンベデッド	1	1
ネットワーク	1	0

スライド22：資格取得支援（1）

## 資格取得支援



平成21年春期情報処理技術者試験合格者

スライド23：資格取得支援（2）

## 学生相談室

- 学生の抱える問題を早期発見し、対応するため学生相談室を設置
- 臨床心理資格をもった非常勤カウンセラー、看護師、相談員(教員)で対応
- 平成20年度は67件(36名)が相談室を利用
- 教職員を対象とした研修会を実施
  - 学生の自殺予防について(平成20年度)
  - 自殺予防のロールプレイ(平成20年度)

スライド24：学生相談室

## 学生への経済的支援

- 授業料の納付が困難な学生に授業料等を貸与するために沖縄工業高等専門学校奨学基金を設立
- 企業からの寄付金(6社から約440万円)により基金を設立
- 貸与実績
  - 平成19年度 2件 313,522円
  - 平成20年度 4件 479,205円
  - 平成21年度 1件 117,300円(前学期)

スライド25：学生相談室

## 沖縄工業高等専門学校後援会

- 沖縄高専における教育・研究事業を支援するとともに、会員相互の交流・連携を図ることを目的として設立
- 在学生の保護者で構成される
- 年額2万4千円の会費で運営
- 下記の活動の支援を行う
  - 課外活動(競技会、コンテスト)の派遣旅費補助
  - 課外活動費(部・同好会へ配分)
  - 就職等の進路開拓支援

スライド26：学生相談室



# 学生寮

スライド27：学生寮（表紙）

## 概要

- 「学習の充実を図り、基本的な生活態度や社会性を身につけ人間的成長を促進させる」ことを目的とした教育施設(寮)として設置
- 「規律・責任感・相互尊重の精神」を身につける
- 決められた日課に従った規則正しい生活習慣と学習時間を設けて学習習慣を身につける
- 1, 2年生は全寮制。3年生以上は希望者から選抜

スライド28：概要

## 施設・設備

- 女子寮(6階建)、男子寮(9階建)、共通棟からなる
- 1年生は2人部屋。2年生以上は1人部屋
- 居室には机、ベッド、クローゼット、エアコン、LAN回線を設置
- 非常時連絡用に非常支援システム通報釦を設置
- 共同施設としてレストラン、浴室、補食室、洗濯室、多目的室を整備
- レストランで朝・昼・夕の3食を提供(1日930円)

スライド29：施設・設備

## 学生寮施設



スライド30：学生寮施設（1）

## 学生寮施設



居室



浴室



補食室

スライド31：学生寮施設（2）

## 学生寮施設



レストラン

スライド32：学生寮施設（3）

## 日課

事 項	時 間
起床	7:00
朝点呼	7:10
朝食	7:30~8:20
登校	8:20~8:30
昼食	12:10~13:00
夕食	18:00~20:00
入浴	17:00~20:30
門限	20:10
点呼	20:40
清掃	20:40~21:00
学習時間帯	21:00~23:00
完全消灯	23:30

(平成21年4月1日施行)

スライド33：日課

## 入寮学生数

	平成19年度			平成20年度		
	男子	女子	計	男子	女子	計
1年	130	36	166	134	29	163
2年	118	50	168	130	35	165
3年	99	29	128	89	48	137
4年	73	11	84	44	20	64
5年	—	—	—	23	5	28
計	420	126	546	420	137	557

スライド34：入寮学生数

## 管理体制

- 学生寮委員会(毎月1回定例)で寮運営に関することを審議
- 教員1名、職員1名の宿日直を配置
  - 宿直(毎日):17:00~8:30
  - 日直(休日):8:30~17:00
- 男子寮と女子寮の指導員(非常勤)2名を配置し、生活相談・清掃指導・巡回指導を担当

スライド35 : 管理体制

## 寮生会

- 全寮制によって組織される学生の自治組織
- 寮長、副寮長(男子、女子各1名)が選挙により選出される
- 執行部と6つの委員会から構成される
  - 執行部、役員会、生活委員会、環境美化委員会、保健衛生委員会、防災安全委員会、企画広報委員会
- 寮生会が中心となって行う行事
  - 新入寮生歓迎会、夏・冬の寮祭、資源回収
  - 地域清掃活動、地域交流活動

スライド36 : 寮生会

## 卒業後の進路

スライド37：卒業後の進路（表紙）

### 就職・進学支援体制

- 進路委員会を設置し、進学・就職・インターンシップを支援
- 求人情報を学内外でネットワークを用いて閲覧できるシステムの導入
- 図書館に進学情報、就職情報を集約
- 工連の支援による県内合同企業説明会（過去3回、1月）の実施
- 学内における個別企業説明会の開催

スライド38：就職・進学支援体制

## 求人状況

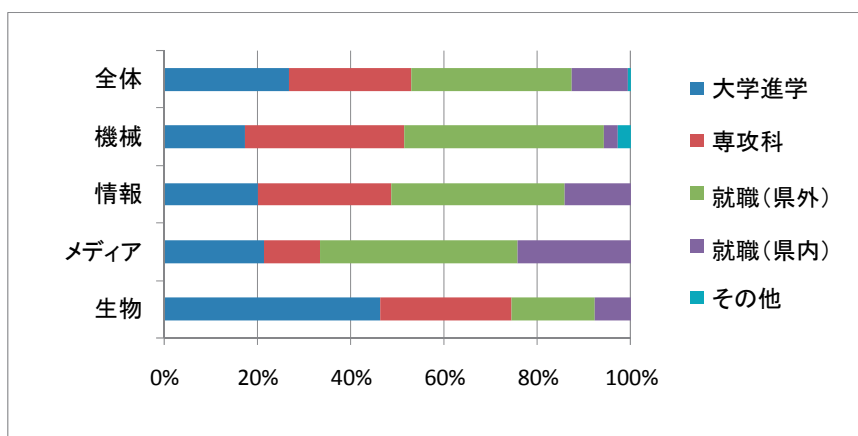
- 平成20年度(1期生)
  - 県内企業 47社
  - 県外企業 356社
  - 就職希望者75名に対し約18.2倍の求人
- 平成21年度(2期生)
  - 県内企業 44社
  - 県外企業 290社
  - 就職希望者65名に対し約17.4倍の求人
- 平成22年度(3期生) 2月18日現在
  - 県内企業 6社
  - 県外企業 113社
  - 昨年同時期 県内8社、県外167社

スライド39 : 求人状況

## 進路状況(2期生)

進学内定率98.7%(75名)

就職内定率100%(66名)



スライド40 : 進路状況(2期生)

## 主な進学先(2期生)

- ・ 琉球大学 (6)
- ・ 電気通信大学
- ・ 筑波大学
- ・ 豊橋技術科学大学 (8)
- ・ 長岡技術科学大学 (2)
- ・ 札幌市立大学
- ・ 新潟大学
- ・ 福井大学
- ・ 武蔵野大学
- ・ 静岡大学 (2)
- ・ 岐阜大学 (3)
- ・ 奈良女子大学
- ・ 宮崎大学 (2)
- ・ 佐賀大学 (2)
- ・ 鹿児島大学
- ・ 京都工芸繊維大学
- ・ 首都医校(2)
- ・ デジタルハリウッド東京
- ・ デジタルアーツ東京

スライド4 1 : 主な進学先 (2期生)

## 主な県内就職先(2期生)

- ・ サンシャイン
- ・ 沖縄電力(2)
- ・ 沖電グローバルシステムズ
- ・ 沖縄富士通システムエンジニアリング
- ・ 沖縄日立ネットワークシステムズ
- ・ インデックス沖縄
- ・ 沖縄クロスヘッド
- ・ 沖縄コカ・コーラボトリング
- ・ ハーベル(2)
- ・ 沖縄菱電
- ・ 開邦工業
- ・ シュガートレイン
- ・ 沖縄テクノス
- ・ サウスプロダクト
- ・ EM研究機構

スライド4 2 : 主な県内就職先 (2期生)



## 主な県外就職先(2期生)

- サントリープロダクツ
- 花王(2)
- 雪印
- 新日鉄(2)
- 明治乳業
- トヨタコミュニケーションシステム
- 三菱重工神戸造船所
- 三菱重工長崎研究所
- 中部電力(2)
- 東京電力
- 出光興産
- 国立印刷局
- 大阪ガス
- 富士通
- 富士通アドバンスソリューションズ(2)
- 富士通ミッションクリティカルシステムズ
- NTTネオメイト(2)
- デンソーテクノ
- ピクシブ
- アイシン精機
- IHIエアロスペース・エンジニアリング
- 日本空港テクノ

スライド43：主な県外就職先（2期生）

## 卒業生の県内定着状況

平成21年3月卒(1期生)

	県内	県外
就職	21(28%)	54(72%)
進学	37(52%)	34(48%)
合計	58(40%)	88(60%)

平成22年3月卒(2期生)

	県内	県外
就職	17(26%)	49(74%)
進学	43(57%)	32(43%)
合計	60(43%)	81(57%)

※県内進学数は専攻科進学と琉球大学3年次編入

スライド44：卒業生の県内定着状況

# 専攻科

スライド45：専攻科（表紙）

## 概要

- 平成21年4月に1期生の本科卒業に合わせて設立
- 1専攻4コースから構成
  - 【創造システム工学専攻】
    - 機械システム工学コース
    - 電子通信システム工学コース
    - 情報工学コース
    - 生物資源工学コース

スライド46：概要

## 専攻科において 育成しようとする技術者像

- ① 実践性と創造性を兼ね備えた技術者
- ② 社会や環境、人類の福祉などを地球的視点から考えられる技術者
- ③ グローバル化時代に対応する国際性豊かな技術者
- ④ コミュニケーション能力と統率力を兼ね備えた指導的技術者
- ⑤ 新技術・新産業創出を担う高度な専門技術力を持つ研究開発型技術者
- ⑥ 地域産業を担う起業家精神旺盛な技術者

スライド47：専攻科において育成しようとする技術者像

## 学生の状況

		志願者数	入学者数
平成21年	機械システム工学コース	5(0)	5(0)
	電子通信システム工学コース	9(1)	9(1)
	情報工学コース	5(2)	5(2)
	生物資源工学コース	9(6)	9(6)
	計	28(9)	28(9)
平成22年	機械システム工学コース	12(0)	12(0)
	電子通信システム工学コース	10(2)	10(2)
	情報工学コース	4(0)	4(0)
	生物資源工学コース	11(5)	11(5)
	計	37(7)	37(7)

スライド48：学生の状況

## 主な研究成果

### • 機械システム工学コース

- 亀島洋平, レーザピーニング処理したTi-6Al-4V合金の回転曲げ疲労特性, 日本材料学会 第14回破壊力学シンポジウム(2009年10月)

### • 情報工学コース

- 榮門恒希, 形状ベースパターンマッチングを利用したQRコード追跡, 電気学会産業システム情報化研究会(2009年9月)
- 鈴木裕太, 画像処理を用いた三次元移動ロボットの制御に関する研究, 電気学会産業システム情報化研究会(2009年9月)
- 喜納希美, GPS情報を用いた海岸清掃ロボットの開発, 電気学会産業システム情報化研究会(2009年9月)

スライド49 : 主な研究成果 (1)

## 主な研究成果

### • 電子通信システム工学コース

- 崎原孫周, 強制振動モデルによる発振器の位相雑音解析, 2009年電子情報通信学会エレクトロニクスソサイエティ大会(2009年9月)
- 照屋尚樹, コルゲート導波管フィルタの阻止帯域に関する検討, 2009年電子情報通信学会エレクトロニクスソサイエティ大会(2009年9月)
- 山城信裕, 工学実験における簡便な動画教材作成法の検討, 日本eラーニング学会 2009年秋季学術講演会(2009年9月)
- 伊波慧, 小型組込み機器への暗号システムの実装, 平成21年度電気学会産業システム情報化研究会,(2009年9月)
- 知念輝佳, 感性表現の異なる舞踊動作を用いた注視情報の比較, 第19回インテリジェント・システム・シンポジウム(2009年9月)
- 福地賢, グラフコストの逐次更新を用いた映像顕著領域の自動抽出, 電子情報通信学会 パターン認識・メディア理解研究会, (2009年5月)
- 亀濱博紀, ヘリカル・グリッドパラボラアンテナを用いたWiMAX送受信リンクの設計と評価, 平成21年度電気学会・電子情報通信学会合同講演会(2009年12月)
- 大嶺貴充, 非破壊検査法による実装回路評価の一考察 第17回電子情報通信学会九州支部学生会講演会(2009年9月)

他14件

スライド50 : 主な研究成果 (2)

## 主な研究成果

### • 生物資源工学コース

- 大嶺和可奈, 沖縄産カンショ (*Ipomoea batatas L.*) 茎葉の抗酸化活性に関する研究, 日本薬学会(2009年3月)
- 小川和香奈, 沖縄県久米島に自生する菌根性担子菌の分離と同定, 日本キノコ学会(2009年9月)
- 祝嶺愛里, 紫外線によるC6細胞の損傷評価および植物抽出液によるNO産生抑制効果, 日本皮膚科学会(2009年4月)
- 目取真拓人, 熱帯果実の高度利用の検討, 日本生化学会(2009年10月)
- 安間智美, キンミズヒキ (*Agrimonia pilosa Ledab*) のLPS誘導RAW264. 7マクロファージ系細胞によるNO産生抑制成分, 日本薬学会(2009年3月)

スライド51 : 主な研究成果 (3)

## 教育改善

スライド52 : 教育改善 (表紙)

## IT技術の教育への活用

- 入学時にノートPCの購入を義務づけ
- 無線LANにより学内のどこからでもインターネットに接続できる環境を整備
- 教室の床にコンセントを設置し、PCを用いた授業を実施するための設備を整備
- 1年生に対してワープロ、表計算、プレゼン等の実習を実施
- 各科目でPCでのプレゼンやメールでのレポート提出を実施
- 学生への通知は基本的にメールを活用

スライド53：IT技術の教育への応用

## 教育改善活動

- 教育改善のためにFD委員会を設置、推進のために4つの部会で活動
  1. 授業評価に関する検討部会  
学生・教員による授業評価、学生の達成度評価
  2. 教育方法等の改善に関する検討部会  
教育方法等の研究、研修
  3. 教員表彰に関する検討部会  
教員の教育上の指導能力に関する評価と表彰
  4. FDの推進・在り方に関する検討部会  
新任教員への理念・目標の紹介、教育制度の理解支援  
教育活動の実態収集

スライド54：教育改善活動

## 授業評価・アンケート

- Blackboardを用いた授業アンケートを実施
- 平成19年度はアンケート結果に対する教員の授業改善報告書の提出状況が悪かった
- 平成20年度は学生に対して授業時間外でのアンケートを実施したため回収率が極端に低かった。
- 今年度は過去2年の反省を踏まえて実施している。

スライド55：授業評価・アンケート

## 研究・地域貢献

スライド56：研究・地域貢献

## 沖縄工業高専専門学校産学連携協力会

- 沖縄高専の教育・研究活動を側面より支援すると共に、本県産学間の共同研究を推進し、産学振興に寄与することを目的とし、平成16年4月に設立
- 企業会員154社、個人会員38名で構成
- 以下の事業を推進
  - プロコン、ロボコンの活動支援
  - 合同企業説明会の実施支援
  - 企業見学の実施支援
  - 産学連携推進(高専フォーラム、北部フォーラム、産業まつり)

スライド57：沖縄工業高等専門学校産学連携協力会

## 技術講習会・出前授業

- 3D-CAD講習入門コースを開講(受講者22名)した
- 沖縄県中学生創造アイデアロボットコンテストへの審査員派遣と会場提供(体育館)を行った。
- 小学校、中学校、自治会に対して出前授業を実施
  - 平成19年度は7件、平成20年度は5件を実施
  - 実施例  
那覇市古波蔵子供会(平成20年8月24日)  
テーマ:エネルギーを体験しよう

スライド58：技術講習会・出前授業



## 地域連携

- OKINAWA型・実践的高度溶接技術者の育成事業
  - 平成17年度から3年間実施
  - 平成19年度は6名の受講者があった
- 沖縄健康ブランド確立を目指した生産・管理技術者の育成事業
  - 平成18年度から実施
- 地域産業界との交流活動
  - 平成20年度実績
    - 技術相談10件
    - 共同・受託研究 24件
    - 沖縄高専施設見学会 参加者39名
    - 産業まつり等への出展

スライド59：地域連携

## 外部資金獲得

- 科学研究費補助金の申請率100%を目指す(平成20年度は90.3%)
  - 平成19年度 17件(18,960千円)
  - 平成20年度 11件(13,830千円)
  - 平成21年度 10件(9,990千円)
- 科学研究費補助金についての講習会を実施
- 受託研究等の収入増の取り組み
  - 平成19年度
    - 共同・委託研究受入件数 16件(14,065千円)
    - 寄付金等受入件数 12件(7,975千円)
  - 平成20年度
    - 共同・委託研究受入件数 24件(23,833千円)
    - 寄付金等受入件数 18件(6,823千円)

スライド60：外部資金獲得

## 沖縄高専フォーラム

- 那覇地区と名護地区でそれぞれ年1回開催
- 平成20年度のテーマ
  - 第5回沖縄高専フォーラム・技術交流会(平成20年11月25日)  
沖縄県の生物資源利用の現状とその可能性について  
参加者:80名(フォーラム)、49名(技術交流会)
  - 第4回沖縄高専北部地域産学連携フォーラム・技術交流会  
(平成21年2月5日)  
やんばる生物資源活用の可能性  
参加者:131名(フォーラム)、41名(技術交流会)

スライド61：沖縄高専フォーラム

## 管理運営

スライド62：管理運営（表紙）

## 事務の効率化・合理化

- 事務組織の再編成
  - 平成19年4月に3課体制から2課体制へ再編
- 経費節減の取り組み
  - 電子メールの活用、電子掲示板の活用
  - 使用済み裏紙の利用、コピー経費の節減
    - 平成20年度は18年度比約12%節減
- 事務職員の情報処理技術向上
  - 総務省主催 情報システム統一研修を受講
  - 平成18～20年度で22名受講

スライド63：事務の効率化・合理化

## 安全管理

- 安全衛生委員会を設置し、学内の安全管理・事故防止を図る
- 定期的な学内巡視を行い、指摘事項に関して各施設の責任者に改善を求める
- 学生向きに「安全の手引き」を作成、配布し実験等の授業における事故等に対応
- 各部活対象にAED取り扱い講習を実施
- 試薬(毒物、劇物)管理について研究推進委員会でガイドラインを定め、PCによる管理システム(TURIP)を運用

スライド64：安全管理

○**山川会長** 正木先生、どうもありがとうございました。

今のプロジェクターで学校概要説明が終わりまして、いろんなことが大体よく理解されたかと思います。

それでは意見交換に移ります前に、実は参与の皆様から事前に質問状をいただいているんですね。その質問に対するお答えを高専サイドからご説明をお願いしたいと思うんですけども、また正木先生でよろしいでしょうか。

○**正木 自己点検・評価委員長** お手元の資料は「事前質問事項に対する回答」ということで、回答を用意させていただいております。事前に、報告書に関して10件のご質問がございました。資料集に関して11件のご質問がありました。それに対する回答を用意しております。

この質問事項に関しては、個々を説明するのは時間がございませんので、これに目を通していただきながら、これからのご議論に活かしていただければというふうに思います。よろしく申し上げます。

## (8)意見交換

○**山川会長** そういうことで、お持ち帰りなさって、あるいは今並行して見ながら≒質問・意見の交換をしたいと思うんですけども、よろしいでしょうか。

時間の都合上、まず上間参与のほうから順次5分程度の質疑をお願いしたいのですけれども、よろしいでしょうか。

○**上間参与** 特に大きな問題ではないですが、「寮生の日課」の方に学習時間帯が21時から23時という2時間があったのですが、これだけの学習内容を昼にやりますから、それを寮に持ち帰って2時間ぐらいでこなせるものなのかという事が1つ。それに従って「11時30分に消灯」となっているけど、そのあと1人部屋のところでも消灯なのですかという事が聞きたいのですが。

○**糸村校長** これは、寮務主事の濱田先生。

○**濱田寮務主事** それでは、1つ目の学習時間帯ですけども、この時間帯は静粛にして自分の部屋に行って勉強してくださいという時間帯で、その時間は全員が勉強するという時間としてとってあるというわけです。それでこの2時間だけで足りないという寮生もそれはもちろんたくさんいますので、その人たちはそれ以外の時間も放課後からやっていて、勉強する時間以外してはいけないということではないので、それは適宜各々で時間を

使って勉強をするということになります。

**○上間参与** 学校から帰って夕食までの間に時間があるのですか。

**○濱田寮務主事** そうですね。放課後授業のあとから門限までは学校で生活しても構いませんし、図書館を使うなり教室で居残ったりというふうにして各々で勉強する時間を確保するという事です。

**○上間参与** 11時以降はどうなんですか。

**○濱田寮務主事** 11時以降は、11時30分まではもちろん可能です。11時30分からはもう基本的に消灯して休むと。翌日が7時起床ですので、11時半からでも7時間半の睡眠時間しか基本的には保たれませんので、やっぱりそれ以降まで消灯を伸ばして勉強をするというのは健康上も考えて、そういうふうな設定にされております。

**○上間参与** それでいけるのですかね。やっぱり進学のための授業がないからその時間でこなせるのですか。

**○糸村校長** 延灯もありますよね。

**○濱田寮務主事** 専攻科と5年生・4年生の高学年の学生の皆さんは、ある勉強をするグループとかで申請してもらって、その人たちは1時まできちんと勉強するという条件に、延灯するというのを認めています。そういうシステムも1年生から5年生まで全部を通してということはないのですけれども、そういうふうな申請を出してきた学生に対しては個々に対応するというシステムも整っています。

**○上間参与** 11時半過ぎてから、布団をかぶって懐中電灯をつけることはないですか。

**○濱田寮務主事** 消灯といいましても、ブレーカーが落ちるということはないので、本人が自分の意思で消さないといけないということです。設備的に真っ暗になるということはありませんので。

**○山川会長** 今関連して、前期・後期と2学期制でしょう。そうすると、前期・後期と単位数でいうと、学生は何単位を取ってよろしいのでしょうか。単位の数え方は大学とほぼ同じと考えてよろしいのですか。

**○糸村校長** いいえ、大学よりも時間が長いですね。

1単位が30時間、大学だと1単位は15時間、45分ですけれどもね。高専の場合の単位は1単位こういうカリキュラムで教育すると30時間ですから大学の2倍の座学の授業をやる。それで、5年間で167単位が卒業要件ですから、1年間でいうと34、35単位ですか。

**○山川会長** 1年間で34、35だけど、大学の単位に直すと70ぐらいに相当するというこ

とですね。

**○糸村校長**　　そうです、倍になりますから。

**○山川会長**　　と言いますのは、大学の場合には2単位の授業を取るために前後2時間ということで、20単位しか1学期で取れないのですよ。だからそういう観点から今の質問を聞きますと、非常に自主的に勉強する時間が足りないような印象を私はちょっと受けたものだから、そういう質問をさせていただきました。だから大学では、逆に言いますといくら単位を取ったとしても不消化に終わるといふ大学の配慮で、頭打ちがあります。20単位以上を取ることができないのですね。

**○糸村校長**　　それは、学期で20単位ですよ。1年間で40単位。

**○山川会長**　　そうです。

**○糸村校長**　　高専の場合なら、1年間で34から35単位ぐらいです。

**○山川会長**　　高専の場合は、倍になるのでしょうか。

**○糸村校長**　　時間は倍ですけれども、大学でいうと20単位ですから、週に20時間ですよ。座学としては。

**○山川会長**　　はい、そうですね。

**○糸村校長**　　高専の場合には週に35時間ぐらいの授業を受けているという話ですから、時間割は本当にもうぎっちりなんです。ですから、確かに上間委員のご質問のように、学校で学んだものをさらに予習・復習する時間は確かにきついですけどね。

**○山川会長**　　それで、一応高専の学習方式としては問題ないと。

**○糸村校長**　　ええ、4年生・5年生については、やはり学修単位という形を45時間で1単位という話も入れ込んでいますから、毎日本来は週当たり1日4時間から6時間ぐらい勉強する時間が必要にはなるのですよね。土曜・日曜も勉強していないと時間が足りません。高木教授、学修単位と履修単位について説明して下さい。

**○高木副校長**　　1年生から3年生までは履修単位といって1単位が30時間、4年・5年は大学と同じように1単位が45時間で15時間の対面授業、そしてプラス30時間の自学自習というふうに変化しています。だから3年までは高校に近いと言いますかね。高校は35時間なんです。ですからちょうど高校と大学とそれに近いような形で、4年・5年からは大学の方に。最近ですけど、数年前からそういうふうに変更になってきています。専攻科は大学と同じような単位の換算になっていますので、専攻科のほうは大学と同じように本科ほど授業はいっぱい詰まっていないというふうになっています。

○**山川会長** わかりました。次に、屋良参与お願いしたいんですけど。

○**屋良参与** 概要の説明の15で、インターンシップのところではありますが、2週間で3単位というように考えていいのですか。

○**高木副校長** そうですね。基本的に3単位となって1日8時間で10日間で80時間、その前後で報告会とか予習とかそういうので合計90時間というふうに勘定をしています。

○**屋良参与** インターンシップのときは、企業から何らかの手当てというんですか、何かありますか。

○**高木副校長** 基本的には手当はなしでお願いしています。ただ、実際問題として県外に行く場合に、旅費と向こうでの滞在費を補助して下さる企業さんが多いです。ただ、県外で大学とか国の研究機関に行く場合には一切出ないので、その経費は自分持ちになるというので、そういう学生は何万円もかかる感じです。企業に行く場合には比較的企業の方が出してくれる場合が多いです。ただ、日当については基本的にはこちらは要りませんというふうに言っていますけれども、企業によっては出すところもあるようです。

○**屋良参与** その場合はもう遠慮なく受け取っていると。これは学生がもらうことになっているのですか。

○**高木副校長** そうです。多分、食事代とかそういう感じですかね。あと、県外企業だったら場合によってはバス代を出してくれるというところもあります。こちらからは基本的に要りませんというふうに言っておりますけれども、出してくれる場合については特に制限はしておりません。

○**屋良参与** インターンシップに行った場合、戻ってきて報告会と同時にレポートか何かを出すのですか。

○**高木副校長** そうです。全員がパワーポイントを使って報告会をして、基本的にまず事前レポート、インターンシップに行ったらインターンシップの報告書、それから報告会、それを全部やってもらって、オーケーというふうになっています。今のところ全員がオーケーになっています。

○**屋良参与** 高専はどちらかというとならば理数系ですね。中学校を卒業して高校へ行く段階で、この学生そのものがまだ進路というんでしょうか、文系に行くか理系に行くか右に寄ったり左に寄ったりしている傾向など、決めにくいのではないかと思いますので、そのときに先ほども少し説明がありましたが、進路変更ということもあり得るかなと思うんですよね。自分は理数系に向かないなという、それが何割ぐらいでしたか。

○**正木 自己点検・評価委員長** 例えば1年生ですと、今年は1人ですね。毎年数人いますね。各学年大体均等に退学者はいます。

○**屋良参与** ここで3カ年やると、高卒みたいな感じになりますね。1・2・3年で。

○**正木 自己点検・評価委員長** そうです。3年で終わると、高卒として。

○**屋良参与** 認められるのですか。

○**正木 自己点検・評価委員長** はい。

○**南部学生課長** 高卒ではありません。

○**屋良参与** 認められないのですか。例えば他の大学へ行く場合ですね。

○**正木 自己点検・評価委員長** いや、大学の入学資格はあります。専門学校等にも入れます。

○**山川会長** 大学の入学資格はあるわけですね。

○**糸村校長** 受験資格はあります。ですから、3年間終わると書類上は高等専門学校3カ年課程を終了したことを証明しますという形の資料を出して、それが受験に対して高卒と同じような形になるわけです。

○**山川会長** それで私はこれから工学部に行こうとか、経済学部に行こうとかこういうふうになりますよね。どうも自分は理数系に向かないと。

それとついでに、同じ高専の中で機械学科から生物に移りたいとか、そういうことは柔軟に対応されておりますか。

○**糸村校長** 転学科制度はありますが、現実には1年のときからもう各学科の専門が若干入ってくるのです。ですから本校では今のところ転学科の実績はありません。

○**山川会長** しようと思うならできるのですか。

○**糸村校長** 形の上で、制度上は置いています。他高専の場合に、もう少し専門の緩いところ、低学年で専門が緩いところでは、現実には転学科させているという学校もあるようですが。

○**山川会長** 例えば、ここはメディア情報工学科と情報通信システム工学科と2つありますでしょう。そういうところでは、割と転学科は逆でないわけですか。

○**糸村校長** 今のところないです。

○**高木副校長** 申し込みがないんですね。転学科の条件はこの学生生活の手引きに書いてあって、相談を受けたときにはもちろんそういうふうにはありますけど、だんだん自分の学科のほうに慣れてくると言いますかね。最初は隣の芝生がということもあるかもしれ



ませんが、やはりやっているうちに仲間とかそういう愛着が出てくるので、途中でやめるというふうな感じで、今のところ制度はありますけど実績はないということです。

**○屋良参与** 1学科40名ですね。座学の場合に、例えば2学科合同の講義というのもやっておられるのですか。例えば80名で教養といいますかそういう関係の。

**○糸村校長** 産業創造セミナーという授業の場合には3学科一緒の120名というのもありますね。あとは、ないですね。

**○高木副校長** それは要するに、学外講師を呼んでやってもらうもので、講演会みたいな恰好なのでそういうふうにやりますけれども、基本的には授業は40人単位でやっています。

**○屋良参与** あと思ったのは、例えば物理だったら80名いっぺんの合同クラスとかというのは。

**○高木副校長** 全部別々に同じことをやっています。そういう感じではやっぱり大人数だと質問とかの対応が難しくなるので、なるべく少人数で。40人でも場合によってはちょっと多いかなという気がします。

**○屋良参与** 教室が40室あると聞きましたが。

**○糸村校長** それは演習室も全部含めてですね。通常の普通教室は16です。それからあと35人ぐらいの教室が4教室、それからもう少し小さいのです。

**○屋良参与** よく文科省では、稼働率を上げなさいと。それはどうなっているのですかね。

**○糸村校長** そういう意味で最初に16教室にしたのは、本来5学年で20クラスあるわけですから、20教室をつくれれば完全にホームルームとしてできるだろうと、ただ、そうするとたしかに稼働率が落ちるだろうというので16教室にしたのですが、実質5年まできてしまうとちょっと足りないという事が出てきました。

それからもう1つ、特別教室的に美術で使うような部屋をつくったのですが、そこが少し稼働率が悪いという形ですね。一般の教室のほうの稼働率は比較的高いです。6割か7割近くまでいきますかね。

**○山川会長** 稼働率に関連してですけれども、今法人化になったものだから大学はお金を稼がなければいけないんですね。だからその教室を、日曜日・祭日は外部に貸して、使用料をいただくというような取り組みはなされておられますか。

**○糸村校長** 外部から使用依頼が出たときには一応基準を決めてあって、お貸しするよ

うにはしてあります。

○**山川会長** だから、それを積極的に取り組んでおられるのですか。

○**糸村校長** 必ずしもPRしているというところではないんですけど。一番大きいのは体育施設ですかね。特にうちのテニスコートはナイターがあるものですから、そこについてはこの近隣の同好者の方々が申し込んで使っていて、それはちゃんと使用料を取っています。

○**山川会長** その使用料は学校の収入になるわけですね。

○**糸村校長** 学校の収入です。

○**山川会長** 国にお返しすることはないですね。

○**糸村校長** ないですよ、財務担当。あれは機構に行くんですか。機構に入れてうちの収入に戻るんですかね。直接すぐじゃないわけですね。

○**山川会長** やはり、収入のためには稼いだほうがよろしいわけですね。

○**糸村校長** そうですね。

○**山川会長** どうもありがとうございました。

次は小嶺参事。

○**小嶺参与(代理)** 先ほどFD委員会という話がありましたけど、最近世の中流れが速いので、例えばカリキュラムの見直しとかあるいは場合によっては学科の見直しとか、いろいろ議論があると思うんですけども、特に企業とかのいろんなニーズ、変遷とかありますよね。その辺で、もう5年過ぎているのですけれども、この5年でその変遷というのはあるんですか。それほど変わってないのですか、この5年については。

○**正木 自己点検・評価委員長** カリキュラムについては、各学科のほうでいろいろ手直しはしております。最初に設立されたカリキュラムは、まだ学校ができていない状況でつくったカリキュラムで、また机上でつくったものがありますので、実際に教育を始める都合わないところとかございましたので、一昨年ぐらいからカリキュラム改編を部分的に行っております。

○**小嶺参与(代理)** 今、経済界なんか割と学校がついつい硬直化してしまうみたいな話がありますよね。その辺というのはある程度チェックするシステムみたいなのは組み込まれているんですけども。

○**糸村校長** 沖縄高専がまだ1期生を受け入れる前の平成14年からカリキュラムをずっと検討してまして、平成15年に文部科学省にこういう学科、こういうカリキュラムで

5年間教えますというふうに、最初に出しています。そのために、5年間はそれをむやみやたらに変更してはいけないという縛りがあります。文部科学省側では少なくとも最初にこういうカリキュラムで教育すると学生に約束をして入学させているのだからそれを守りなさい、もし、多少の変更をする場合には、学生の不利にならないということを条件としなさいと言っています。一部マイナーな見直しをしましたがけれども、例えば学科の名称を変えるとか、カリキュラムを大きく変えるということは、この5年間は縛りがあってできませんでした。

1期生が卒業したあとで、すぐ、2カ年課程の専攻科をつくりましたので、今度は専攻科のカリキュラムも、5年間こういうカリキュラムで学んできた学生が次の2年間でこういうカリキュラムで学ぶ、そしてこういう学生を育成しますという形で、結局7年一貫のような形で書類を提出したものですから、そうすると専攻科の1期生、現在の専攻科1年生ですが、彼らが修了するまでは大幅な改正ができないということがあります。現在は本科のほうについては新しく入ってくる学生は5年間の縛りがなくなりましたので、本科側については少しずつ見直しをかけていますが、専攻科のところはまだ2年間は触れないということがあります。ですから小嶺参加がおっしゃっているように、本来産業界からの要望で適宜カリキュラムを変えていくべきではあるんですが、これまでのところはそういう縛りでなかなかできませんでした。しかし各学科でそれぞれ、本科については新しくカリキュラムの検討を始めておりますし、専攻科についても専攻科1期生が修了する段階で変えていこうというふうに考えております。

**○山川会長** カリキュラムに関連してですけれども、今専攻科ができましたでしょう。だから大学並みの卒業資格になりますよね。そうすると、J A B E E (日本技術者教育認定機構) に関してはどういうふうにお考えですか。

**○糸村校長** J A B E E は学士教育という形になるものですから、私どもも専攻科の1期生が来年3月に修了します。そのあと平成23年度に J A B E E を受審するという計画です。J A B E E の審査は本科の4年・5年と専攻科の1・2年、この4年間についてのカリキュラムの中身と学生のアウトカムの審査となります。

**○山川会長** またそのときちょっといじることになりませんか。

**○糸村校長** 初めからそれを考えた上でカリキュラムをつくっています。ですから、専攻科修了ということでは学士、例えば機械工学科でいうとこういう科目を取っていないといけないんだというそれぞれのコースについてのカリキュラムを検討し、かつ J A B E

Eのほうとしては、こういう要望があるわけだから、そのJ A B E Eに対してもうちのカリキュラムがきちんと整合性があるようにするという両にらみで専攻科のときのカリキュラムは検討いたしました。

**○山川会長** J A B E Eは、4学科全部受けられますか。

**○糸村校長** 4コース全部受けられます。ただ、4コース全部受けるんですけども、高専の場合には、それぞれの専門の審査員が来るとは限らないんです。一括して受けるというふうにしています。

**○山川会長** J A B E Eというのは日本技術者教育認定機構で、そこで認定証をもらえば世界水準の工学教育がなされたということが公的に認知されるという制度でございます。

それでは次に兼本参与から何かご意見を。

**○兼本参与** 中学校教育からすると、我々出口で皆さんに預かってもらう方なんですけれども、今入試倍率の推移というのがありますよね。そこで5.3倍から3.8、2.39に下がっているのを、単純に理科離れと片付けていいのかなという気がするんですね。平成16年度の5.3倍も理科離れですよ。ちょうどそのころ与那原中の校長だったんですけども、あの頃は高専に行きたいというトップクラスの子供たちが多かったんですね。これが何で落ちてきたのか。だから単なる理科離れと片付けるのではなくて、もっともっと高専の魅力を中学校側に知らせる必要があるのではないかなと。多分最初的时候に、沖縄に本土にある高専というのが沖縄に初めてできるんだよという何年か前から宣伝活動が出ていて、学校が非常に期待していたんですね。子供たちも期待していたんですね。この施設を見て、あの図書館なんかを見て、いろんな施設を見ると、高校ではこんなにできませんよ。これだけすばらしい施設で子どもたちが学習したいなど、そして高専を出るとこうなるんだというものをもっともっとうまくPRしてほしい。確かに皆さんは学校説明会とか中学校訪問とかいろいろなさってはいるんですけども、それは高校がやっているのと同じですよ。だから高専は高専なりに子供たちに魅力を伝える方法があるんじゃないかなと。そうして下されば、最初の16年当時の高専に行きたいというような高専の魅力をもっと出すことをやって下さらないかなと。こんなすばらしい施設で沖縄の子供たちが学習して力をつけていけば。

理科離れとおっしゃるけれども、工業高校の科目は土木は下がっていますが、ほかは上がっているのもあるんですね。高専の学科というのは割と魅力ある学科という気がするんですけども、その辺をどうお考えになっているかということ。

もう1つ、我々は1年間学校を運営してきて1年間を振り返って課題を出しますけど、中学校の子供たちの学力面で、僕は専門とかはわからないんですけど、高専の授業についていけるようにするために、今先生方が5年間受け入れてきて、沖縄の中学校教育で子供たちのこの部分は足りないんじゃないかなというところがありましたら、ぜひ教えてくだされば、また校長会のほうに報告して対応できるようにしたいです。もしそういうのがあれば教えてほしいなと思います。

**○糸村校長** 今のご質問に対して、成田総合科学科長いかがですか。後半の、例えば中学校の授業について兼本先生が話されたので、成田学科長は数学科の教授ですが、物理も担当しておりますので、ちょっといきなり振って申しわけないかな。

**○成田総合科学科長** 中学校の先生方への提言、私のほうからの提言というところ。

**○兼本参与** こうしてほしいというのはないですか。例えば高専に来る子供たちでいろんな態度でもいいです。例えば基礎的にどの部分が足りないというのでも構わないですが、もしそういったのがあれば、こういった力のある子は高専へ行けますよと言えば、我々も学校内でできたらこんなところにもどんどん行ってほしいし、いまどき就職率100%なんてどこにもないじゃないですか。そういったところに子供たちが意欲的に行けるようにするために、中学校でどの部分を鍛え直すか。

確かに理数系といえば簡単なんですけれども、理数系の中でも沖縄の子がこちらへ来て、勉強しようとするときにこの部分が足りないからついていけないというようなものがあれば。

例えば今、全国学力学習状況の中で、A問題とB問題が出てきていますよね。A問題というのは基礎的事項で、B問題というのは活用なんです。だから、どの部分が足りないのか。先ほどの質問の中で感じたのは、ずっと授業がぎゅうぎゅう詰めで行っていったときに、本当に活用能力が出てくるかなというのが心配で、ちょっと気にはなったんですね。大学なんかは自由じゃないですか。やりたいのは幾らでもやれるけど、やれない人は下がるけど、本当に研究しようと思えばどんどんやるから時間を与えられてやるじゃないですか。その辺のところも含めて、沖縄の子供たちが高専の高い技術を学ぶときに中学校側に要望するのがあれば、今でなくてもいいですよ。もしあれば後で校長会にでも送ってもらえれば、また校長会で高専というこんなにすばらしいところに我々としては送りたいですよ。やがて入試がありますけれども、最近、向陽とか開邦とか那覇国際とかそういう特殊な学科はバーンと倍率が増えているんですよ。僕はこの学校はそれぐらいの学校であ

っていいんじゃないかな。ましてここは限られますよね。そういうところへこそ挑戦して、  
どんどんそういう子供が出てきてほしいわけです。そういうふうにもっと中学校側と連携  
してやっていけるのがあれば。今でなくてもよろしいです。宣伝でもいいですよ。子供の  
入学志願者確保のためのものでもいいですから。はっきり言いますけれども、中学校訪問  
して校長に説明しても増えるわけじゃないですよ。校長が推薦するわけじゃないですから。僕  
は、だから来た時には会いません。挨拶だけして進路指導主任に聞いてくれと言います。  
そういった意味で、ぜひもっともっと連携してこれだけの施設の中に子供を送りたいので、  
急には難しいと思いますか、校長会にでもいいからお願いします。

**○松栄副校長** ちょっとよろしいでしょうか。私は機械科の教員をやっているんですけ  
れども、機械設計を教えています。機械設計を教えている中でやっぱりどうしても目立つ  
のは、力学の基本的な力のつり合いだとか、そういう学力が非常に欠けているんですね。  
機械科としては、やはり今後、機械の学問をやっていく中で力学的な考え方が欠けている  
と問題が多いものですから、1年のときに特別に力学の授業を実験を中心に取り入れたり  
し始めたところなんですけれども、私のほうとして要望させていただくとすると、やはり  
実験を取り入れた授業を多くしていただいて、力のつり合いだとか、熱とか、自然現象の  
実験を取り入れていただければ、そういうものに興味のある子がそちらの方向にどんど  
んと興味を示していくんじゃないか。

基礎的なことで結構なんですけど、やっぱりものを触って理科系のおもしろさというも  
のを体験していただく。

それに対して、もし時間を取っていただけるのであれば、我々の方としては出前授業と  
いうシステムで、我々の持っている機器を持って教員がお伺いしますので、そういう制度  
も毎年大体4月・5月ぐらいに各中学校さんに、こういうテーマで我々としては出前授業  
ができますということでもありますので、ぜひ利用していただいて、もし機器が不足してそ  
ういう実験ができないとか、あるいはそういう実験をするためのノウハウが少し欠けてい  
るということであれば、我々のほうでお手伝いができると思いますので、ぜひそういうも  
のも使って、中学校段階から少しものをいじらせるというような教育を取り入れていただ  
ければだいぶ違うのではないかという感じを受けています。

**○兼本参与** わかりました。僕は理科の教員じゃないものだから、これは理科で多分や  
っていると思うんですけれども、そういったところのもので、高専に入るためにはこう  
いった具体的なものをやったらいいというものをもし校長会にいただければ、全県の校長

にすぐ配りますので。出前授業は聞いてはいますよ。でもなかなか現場の職員に、理科は特に新指導要領の移行で授業数が増えて付録が入ってきて、これをこなすのに精いっぱい、多分出前授業をやる時間はないと思うんですよ、なかなか。

**○松栄副校長**　ですから我が方が出かけていきますので、利用していただければと思うんですよ。そうすれば、高専と中学校が一体になって、そういう理科的な教育をバックアップするということができますので、私のほうで一番心配しているのは、そういうことをやっていないというとおかしいんですけども、昔から比べると少なくなっていると思うんですね。そうすると昔の生徒は、自分が理工系に向いているのか、文系に向いているのかわかったんですね。そういうものに興味が出るか出ないかというのが大きいんですから。ところが今、やはりそういうのが少なくなってくると、座学だけやっていると、文系の子でもそこそこの頭があればついてこれる。そうすると自分が理工系に向いているのか文系に向いているのかというのが判断できなくて、やはり成績のいい子で、明らかに文系の頭の子がやっぱり何人か高専に入ってきているんです。それはもう成績的には十分に入ってきてくれるので入ってきてしまうんですよ。そうするとその辺のミスマッチがあってかわいそうな気がします。最後までついてくる子は多いんですけど、やっぱり自分の本当にやりたいこととちょっと違っているのはかわいそうだと思います。

もちろんそれを15歳の中学のときに判断しろというのは若干酷なところはあるんですけども、それまでにある程度そういう実際にものをいじらせることによって、自分が本当にそれに興味があるのかどうかを気づかせてあげれば、そういうミスマッチも少なくなってくるんじゃないかというふうに私自身は思っています。

**○兼本参与**　その件に関しましては、本島内でしたら各地区大体月1回校長会というのがあるんですよ。各地区の校長会に連絡すれば、各地区事務局長とか会長がいるんですよ。連絡すれば、その研修会がいつあるかというのがあれば時間がいただけると思います。

いろんなところが来ますよ。高専はまだないんですけども、進路の決まるのが12月ですよ。子供たちが考え始めるのが4月・5月ぐらいに校長会等でそういうのをやってもいいんじゃないかなと。特に1期生の就職率が出ていますから、あの子たちのあの数字なんかを見れば、非常に魅力を感じるんじゃないかなと思うんですよ。

**○山川会長**　この問題は非常に重要な問題を指摘されていると思うんですね。高専サイドでも、実は私たちも共通する問題なんです。だから中学時代から理科離れを防いでいただければ、私たちも助かるんですよ。だから我々も一緒になって考えるべき問題かもしれ

ませんが、とりあえず今高専サイドの内部で、校長会にこうしてほしいとかいう要望を集約していただいて、積極的にアプローチをしていただければ、もっと良くなると。

それと、私が思うに高専は今、専攻科ができましたよね、だから高専を出ますと直接大学院に入れるんですよね。それから高専の3年次編入というのも、実は隠れた存在で非常にいいところがあって、3年次編入で、すばらしい大学に入れるんですね。そういう利点も結構ございますし、きょう見てもわかりますように、設備も揃っているし教員の数も結構多いんですね。私は自分の工学部の教員の数と比較してみると、琉球大学の工学部の教員が約100名いて、学生は夜間主を入れて1学年350名です。ところがここは160名でしょう。そして教員が約67名ぐらいでしょうか。教養課程も技術職員とか事務職員とか入れても、学生1人に1人ぐらいの教職員がつくような、そんなぜいたくな教育環境にあると言っても過言ではないし、そういうところに子供を預けて鍛えていただいたら、子供がすくすくと伸びていくというのも目に見えていますので、ご指摘は当然と思います。どうぞそこら辺時間をかけて、我々も、もし可能であれば一緒に参加したいぐらいでございます。そういうことで連携しながら、工学教育に魅力を感じさせる子供たちを育てたいと思っています。

**○兼本参与** 校長会は要望があればお手伝いしますので。我々としては子供をぜひ送りたいんですよ。もっと、どんどんここに希望者が出てほしいんですよ。

**○山川会長** 貴重なご意見をありがとうございました。

次は萩堂参与、お願いできますでしょうか。

**○萩堂参与** 私は名護地域の者として、教育に関しては先ほどからいろいろと議論されていますので、私は折角すばらしい学校がこの地域に出来ましたので、地域が一つになって、学生達がここで勉強するいい環境づくりや、生活する上でのいい環境づくりを地域でどうつながりをつくってやっていけるか。今実際どうなっているのか。ただ、寮生活だからわからない。ある程度学年が上がったら、外に出てアパート生活するから、我々はこの学生たちがどう思っているかさっぱりわからないんです。その辺は学校として学生たちにアンケートを取ってみたとか、あるいは父兄にアンケートを取ってみたということがありましたら教えて下さい、そして何が足りないのか、地域はその学校にどのように目を向けてほしいのか、その辺の資料がありましたら、教えていただきたいと思うんです。なかったら、これから新しくみんなで議論をして学生たちに我々がやれることを支援してやっていきたいです。この資料を見ても、そういう資料が出てきていないんですね。です



から中には後援会だとか、産学連携協力会だとかありますが、この学校はまだ設立されて1期生を出したばかりですが、すばらしい学校なんです。学生たちも一生懸命やる気を起こして頑張っています。みんなが評価します。しかし、一生懸命頑張っていけば当然そこにはいろんな研究費だとか外に出ていくための経費だとか、そういうのはどこかが援助しなくてはいけなくなってくるはずなんです。そういうことをもったのびのびとできるような環境づくり、これを我々地元の人間として知る事が出来れば大勢の皆さんに応援を求める方法もあると思うんです。ですから、ぜひまだそういうことを必要とするならば、学生たちにアンケートを取ってもらって、我々に提示していただきたい。私はそれをお願いしたいなと思っています。

**○山川会長** それに関連するかもしれませんが、先ほど研究成果の発表がありましたよね。あれは基本的に学生が発表するのでしょうか。そういう学生の旅費はどういう負担をさせているのですか。科研とか校費ですか。それとも学生自ら多少は出さないといけないのですか。

**○糸村校長** 電子通信システム工学コースが多かったのは科研費です。それからもう1つは、琉球大学でありましたから交通費がかからなかったということです。今のところ専攻科生の研究発表については、学校側からの支援はちょっとできていません。外部資金を持っている教員の研究費です。

荻堂参与がおっしゃった件は、確かに私どもも今、卒業生に対してアンケートを取っているのですが、学校側に対する要望という形で取りましたので、この地域に対してどうだということは取っておりませんでしたから、それは改めて学生に聞いてみる必要があるかと思います。現在、寮のキャパシティが学生総数の7割ですから、それを超える学生については自宅から通学する学生もいますけども、この周辺あるいは名護市街地のほうでアパートを借りるわけですね。そのときに、学校の中にいけば寮もすべてLANが整っていますからパソコンが使える。ところがこの周辺のアパートに移ると、そこにはインターネットが来ていないということがあって、インターネットを使えるアパートには入るんですけど、そのネット環境のないところでは、学生は入らないものですから、市街地のほうに移るということもあって、この地域のアパートの家主さんにもどうぞインターネットを引いてください、そうでないと学生は入りませんという話をしています。この周辺でいうと、コンビニが1軒あるだけですので、学生はそのコンビニまで約1kmぐらい歩いていきますけれども、やはり店が少ないというのが1つあります。

それから、市街地に対してはバスでしか行けない。車を持っている学生はいいんですが、バス賃が例えば片道500円かかっても、学生にとっては往復1,000円だとやっぱり痛いんです。那覇のように市内バスがあればいいわけですが、そういう面での交通機関についてももう少し改善されるといいんですが、それは10年、20年と、この辺野古の人口がもっと増えないと難しいのかなというところなんです。先ほどのアンケートの件は、学生に地域への要望ということも加えたいと思います。

**○荻堂参与** 例えば学校独自で名護市の行政に、今の交通の問題だとかを要請をするのが難しいのであれば、地域と一体になって例えば辺野古・豊原区の皆さんと一緒に、もっと交通路線を増やしてほしいとか、あるいは無料バス等も時間的に出してほしいと、そのぐらい思い切った要請は学校だけでは無理だと思うので、地域と一緒に要請をする。私はそれは決して無理な話ではないと思うんですね。名護市には高専を誘致した責任があると思うから、ですから、そういうこともまた話が出れば、私ども各種団体と協力して支援できるところは一緒に支援をやっていきたいなというふうに考えています。ただ、先ほどから入試倍率が当初はすごくよかったけど若干落ちている。それは理系離れじゃないかという話もあると思うんですけども、私が心配するのは、地域の利便性が悪くて、親御さんが敬遠しているのではなかろうかという心配が先に来るんですね。もし利便性が悪くて、沖縄高専はちょっと不便だよと、それよりも町の周辺の学校に行ったほうがいいんじゃないかとか、そういうふうな形になっているんだったら、我々は大きな責任があると思うんですよ。ですからその辺もぜひ私どもができるところは遠慮なく申しつけていただければ、できる範囲はみんなで一緒に改善していきたいというふうに思っていますのでどうかひとつよろしくをお願いします。

**○山川会長** このように青い海を目の前にし、青い空がある。こういう非常に静かな場所で勉強できるというのは、非常にぜいたくな環境だというふうに私なんか思うんですけど。だからそういう環境の中で子供たちがすくすく勉強できると、最高じゃないかと、そういう最高なものもまた地域が支えてくれたら、なお良くなるということだろうと思います。どうもありがとうございました。

最後になりましたけれども、内閣府沖縄総合事務局の野原補佐、よろしくお願ひいたします。

**○野原参与(代理)** 先程からのご説明で入試倍率が2以下にならないようにしたいとのことですが、目標として学校の運営方針に示されているのでしょうか、数値目標とする

ことで達成度合いとか自己評価もシッカリ出来ると思います。また、卒業生の進路について進学と就職がそれぞれ半分になっておりますが、学校として予想していたことなのかどうかが分かりません。学校の運営方針からするといかがでしょうか。先程の入試倍率ですが一案として県内の他校と比較することで高い、低いとの見方が出来ると思います。今回の自己評価報告書は高専だけの数字になっておりますので、直接、数字自体での評価は難しいです。

例えばホームページですが、何月頃にどのような内容にアクセスが多くなるのか等を細かく分析することで、ホームページが外部からどのように活用されているのか分かりますので、発信する内容・時期などいろいろと工夫できると思います。

また、レストラン、図書館とか見せていただきましたが非常に素晴らしい施設と思いますが、学生の生活環境、学ぶ環境として十分なのか、利用されているのかどうかの分析も必要かと思います。図書館のスペック9万冊に対して現在5万冊になっておりますが、質・量ともに十分なのか、もっと補充する必要があるのかどうか分かりません。

繰り返しになりますが、進学・就職率の割合についての評価は大変重要と思いますので、いろいろな数値から分析評価して、これを学校の運営方針・目標として各々の職員が目標として理解することでシラバス等の改善すべき点などが見えてくるとと思います。今回の自己評価ではこのような数値目標あるいは他との比較検討などによる分析・評価がちょっと弱いと思いますので、今後、自己評価に際しては改善検討したらどうかと思います

**○山川会長** ありがとうございます。今のご意見に対していかがでしょうか。

**○糸村校長** ありがとうございます。高専機構本部としては、2倍を切らないようにと言っています。その数値を一度出してしまったがために、現在高専全体としては1.85近辺ぐらいで、やっぱり定員割れしているところもあります。非常に多いところは4倍というところもあるのですが、それで全体としては2倍として設定してしまうのが今少しきついというのが高専全体の状況ではあります。

本校の場合には、県立と併願できることにはしていますけど、実質的にはほとんど併願はないわけですが、例えば山口県の徳山高専の場合には、完全に県立と併願で、両方の合格発表があったあとで学生は進学先を選べる。そこですと4倍近く常時あるそうです。かつ周辺の進学校とほぼ同じようなレベルの学生が受けてくるということで、他高専は40年近くの実績がありますが、新設の本校の場合にはまだそのところがなんとも言えません。

例えば兄弟で兄さんがいて弟が入ってくるという形で、現在20組以上兄弟姉妹が入って

きていまして、やっぱり上が学んでいけば下もきちんと高専のことはわかるという状況はあって、こういうことは他高専でも同じようにありますし、40年以上も経っているので、親が高専出身で子供も高専出身という形は出てきております。私どもとしては、できればやはり2倍を何とか確保したいと思っていますところです。

それから、進学・就職の状況は、これも高専全体としては専攻科も含めての進学が今45%ぐらいで、本校の場合は約50%です。非常に極端に進学が多くて大学の予備校的になっている高専もあります。85%ぐらいが進学してしまう。そうなると、高専の本来の設置目的というのは、技術者を産業界に送り出すということで最初につくったものだから、ちょっと設置目的と違うのではないかというふうに、これは文科省がいう話なんですけれども、高専側としては、例えば85%ぐらいが大学に進学してしまうという学校は、「うちに入ったら東大に行けますよ」と、そういう形で地域の理工系の中学生を始めから引っ張ってしまうというのもあるって、どちらがいいのかというのは何とも言えない状況です。

私自身は、高専に入ってきた特に1期生には、1期生は優秀な学生が多かったということもあるんですけども、中学校のときにいわゆるトップクラスでいた中学生が高専に入ってきていましたから、「諸君、あなたたちは大学に行こうと思えば国立大学にそのまま入れるんだよ。今大学全入時代と言っているわけですけども、中学の3分の1以上の成績でいれば当然大学に行けるんだ。ですから、高専を卒業すると就職する道と大学の3年に進学する道、専攻科という道もある」と、それは初めから1期生には言っていましたので、受験するという場合には、国立大学を受験するというときに、国立は琉球大学だけではないという言い方もいたしました。ですから結果としては約5割が進学し、5割が就職したことについては、平均値よりは少し上にいっているというような状況ではあります。

ただ、本来地元の産業界の要望も受けて設置された高専という意味では、もう少し地元就職する学生がいてもよかったかなとは思っているんですが、これはそれぞれの学科に対する求人の状況で、やはり少しずつ違っていましたので、どうしても県外の方が早く求人がきます。それから情報系は県内も規模の大きい小さいは別として求人がある程度あるものですから、県内に残って就職している学生は情報系が多いというようなことなどもあります。数値的には確かに野原参加がおっしゃったように少し比較のデータがなかったと、本校だけの状況を示しておりますので、全体がどうか、あるいは平均値とどうかというようなことは比較できるデータをお示しすべきだったかと思っています。ありがとうございました。

**○山川会長** これで一巡したわけで、私自身が質問しておりませんが、私は最後に強いて言うならば、ここは博士の先生が多いんでしょう。ほとんどの先生が博士ですよ。それと私がびっくりしたのは、科研の採択率が基本的にこのレベルは高いと思うんです。それで1年生から3年生までは高校生レベルの学生ですよ。寮の仕事もあるし、教育面でいろいろな負担が大きいと思うんです。それにもかかわらず、これだけの成果、先ほどの研究成果でもそうでしたけれども挙げられている現状を考えたときに、非常に頑張っておられるなという印象を受けました。

なぜならば、高い研究レベルに裏打ちされた教育力が、現在、世の中では求められているということが最近よく言われております。だから大学の教員というものは単にインストラクターではないんだと。要するに我々もガイドブックがあってそれに沿って教えているわけではなくて、毎年毎年違った教え方をしていく、自分自身が研究をやっているものだから。そういうことで同じことを教えるにしても違った教え方で、毎年変化があるということは日々研究をやっているという裏付けがあって初めて学生にとってやさしい講義ができる、あるいはわかりやすい講義ができる、あるいは、ものの多面的な教え方ができるということだろうと私は解釈しております。そういう意味で、この沖縄高専の先生たちは、教育と研究を両方、よくもこういう忙しい中であって頑張っておられるという印象を受けましたので、この姿勢を今後も継続していただくことを最後に希望したいと思っております。以上でございます。

ちょうど5時で、予定通りこれで終わったことになりますので、これで皆様のご支援・ご協力のもとで時間内に終わることができほっとしておりますけれども、きょうの参与の会をこれで閉じてよろしいでしょうか。

最後に、総務課長の方からご連絡がございますので、ちょっと耳を傾けていただけませんか。

**○真志喜総務課長** 皆様、長時間にわたりありがとうございました。

最後に糸村校長から御礼のご挨拶をお願いしたいと思います。

**○糸村校長** 参与の皆様方には、お忙しい中、貴重なご意見をありがとうございました。

やはり私どもが学生を教えながらと言いますか、走りながらあるいは歩きながら考えてというような形で卒業生を出してきたというところもあるんですが、資料のつくり方などにしましても、私どもばかりの内側からの視点だけでまとめたところがありました。非常に貴重なご意見を賜りまして、それにお応えするような形で私どももまた学校運営もそう

ですが、学生に対して教育をしていきたいと考えております。

本当に、本日は貴重なご意見をありがとうございました。またご多忙な中を本当にどうもありがとうございました。お礼を申し上げます。

**○山川会長** それから最後に今回の参与の会につきましては報告書を作成し、それを公表することにしております。作成は学校側で行いますが、チェックのほうをよろしく願いしたいと思います。そして、そのチェックが終わったあとに世の中に公表するというようにしたいと思いますので、その点をよろしくご協力をお願いいたします。これはいずれ学校のほうから連絡があると思いますので、重ねてよろしくをお願いいたします。以上でございます。

#### **(9)閉 会**

**○真志喜総務課長** 山川会長ありがとうございました。

それではすべての日程を終了いたしました。本日の会議、これですべて終了いたします。

本日は、どうもありがとうございました。

## 5 参与からの事前質問事項に対する回答

報告書について

	質 問 事 項	質問事項に対する回答
1	教員の専攻について教えてください。	本校、学校要覧P8～P16に「教員の専門分野及び研究テーマ」を記載していますのでご参照下さい。
2	教員の表彰に関する規定はどう載っていますか。	本校独自の表彰規定はありませんが、高専機構本部が制定した別添1の「独立行政法人国立高等専門学校機構教職員表彰規則」をご参照下さい。
3	資格取得などで、学生の送迎は場所とか距離に関係なく行いますか。	できる限り現地集合・現地解散を促しますが、寮生など送迎が必要な学生については、スクールバス又は観光バスを借り上げて送迎を行なっています。
4	コンテスト等への参加費用等はどうなっていますか。	参加費や年間費等が必要なコンテストの費用は後援会が負担しています。
5	カウンセリングのところで学生・子供の項があるが？	本校では、学生のみならず、教員及び学生の保護者からの相談も受け付けており、「学生・子供」についての相談は、教員及び保護者からのものです。
6	後援会のような組織がありますか。	沖縄工業高等専門学校における教育・研究事業を支援するとともに、会員相互の交流・連携を図ることを目的として「沖縄工業高等専門学校後援会」が組織されており、主に、学生の教育研究活動、課外活動、進路指導、福利厚生等の支援事業を行っています。
7	留学生を受け入れていますか、その期間や宿泊費用等はどのようになっていますか。	留学生については、これまで国費外国人留学生として本科の3年次に受け入れており、宿泊費等については、文科省からの奨学金(月額125,000円)が支給されています。宿泊所は学生寮や民間アパートを利用しています。

	質 問 事 項	質問事項に対する回答
8	図書館について高専としての蔵書関係の規定はありますか(総冊数)外部からも利用できますか。	<p>「高等専門学校設置基準」第 23 条により図書館の設置が義務付けられ、第 25 条により「学科の種類、教員数及び学生数に応じ、図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料を、図書館を中心に系統的に備えるものとする」と定められています。</p> <p>また、本校では別添 2 「沖縄工業高等専門学校図書館規則」で、「図書及びその他の教育・研究上必要な資料を収集、整理及び管理し、本校教職員及び学生の利用に供することを目的とする」と定めています。</p> <p>また同規則で「本校の教育・研究上支障のないかぎり一般利用者に供することができるものとする」とも定めており、別途、別添 3 「沖縄工業高等専門学校図書館一般利用者利用要項」で一般利用者の図書館利用に関し必要な事項を定めています。(利用証の発行を受ければ図書の貸出も可能)</p> <p>参考データ (H20 年度末現在)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・蔵書数 48,223 冊 (うち洋書 13,685 冊)</li> <li>・視聴覚資料 1,239 点</li> <li>・雑誌 515 タイトル</li> <li>・新聞 8 紙</li> </ul>
9	共同利用施設について規定や外部からの利用はどうなっていますか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育施設等については、別添 4 「沖縄工業高等専門学校施設一時使用規則」に基づき利用することができます。</li> <li>・教育研究設備等については、別添 5 「沖縄工業高等専門学校教育研究施設等の有効活用に関する規程」及び別添 6 「沖縄工業高等専門学校教育研究施設等の有効活用に関する申合せ」に基づき共同研究で利用することができます。</li> </ul>
10	安全管理について、そのマニュアルのようなものは作られていますか。	<p>実験・実習等における安全の基本を記した「安全の手引き」を毎年度作成し、学生、教員、技術職員に配布しています。</p>



資料集について

	質 問 事 項	質問事項に対する回答
1	教員の状況について、現員はあるが定員はどうなっていますか。	高専機構では定員＝人員枠として管理しています。 その内訳は、 【平成 21 年度】 教授 25 名、准教授 24 名、講師 10 名 助教 7 名、合計 66 名となっています。 (H22 年度は教授＋1、助教－1)
2	教員の採用において、学位等の条件はどうなっていますか。	別添 7 の「沖縄工業高等専門学校教員選考規則」第 7 条から第 11 条に教員の資格を規定しており、ご参照下さい。
3	助教と助手との違いは？	学生への教育を行うことが認められているのが助教、サポートのみ行うのが助手です。 【学校教育法 120 条第 6 項 抜粋】 助教は、専攻分野について、教育上又は実務上の知識及び能力を有する者であって、学生を教授する。 【学校教育法 第 120 条 7 項 抜粋】 助手は、その所属する組織における教育の円滑な実施に必要な業務に従事する。 本校では助手は置いていません。
4	女性の参画について教えて下さい。	本校の女性教員には、学生主事補や寮務主事補、クラス担任（副担任含む）や入試委員長といった学校運営において、重要な役割を担って頂いている。 (さらに平成 22 年度からは、教務主事と寮務主事という更に重要な役職へ就任して頂くことになっています。)
5	入学倍率が減少しているが、その対策はどうしていますか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リーフレットを作成し沖縄及び奄美の全中学生に配付しています。</li> <li>・沖縄高専の魅力を伝える番組等を制作し、テレビで放映しています。</li> <li>・中学校等教員対象学校説明会を年 2 回実施しています。</li> <li>・1 年次学生による出身学校訪問を実施しています。</li> </ul>

	質 問 事 項	質問事項に対する回答
6	外国人の入学はどのように行っていますか。また、入学後の教育は英語で行っているのですか。	国費留学生として本科の3年次に受入れています。入学後の教育は日本語で行っています。
7	退学生や留年生の主なる理由は？	<ul style="list-style-type: none"> <li>・退学の主なる理由は進路変更（県立高校などへの編入学）です。</li> <li>・留年の主なる理由は成績不振です。</li> </ul>
8	課外活動の加入は強制ですか。	加入は任意です。入・退部届けは随時受付けています。
9	インターンシップは必須ですか。その評価はどのようにしていますか。	<p>必須です。</p> <p>評価はインターンシップ記録簿・実習先指導担当者の実習評価、課題レポートの提出と、報告発表の結果を総合評価します。</p>
10	教員が校外活動を行うとき、規定がありますか。例えば、手続きや制約など。また、手当などはどうなっていますか。	<p>国立高専機構規則第27号「教職員の兼業規則」に基づいて手続を行います。</p> <p>教職員の兼業は、教職員と兼業先との間に特別な利害関係がなく、又はその発生のおそれがない場合で、かつ、兼業に従事しても職務の遂行に支障がなく、教育研究に有益なものと認められる場合を基本として、許可されます。</p> <p>兼業の報酬額は依頼先によって異なり、報酬が支払われる場合は、勤務時間外の活動として取り扱われます。</p>
11	教員の成果発表について規定などがありますか。ノルマなどは？	特にノルマはありませんが、本校で設けている国際会議発表支援制度を利用して国際会議等に参加した場合は、帰国後、校内で開催する研究・情報交流会で、当該会議等や訪問先で得られた情報を報告するとともに、紀要への投稿を求めています。